



↑思うように前に進めず、ぶつかってしまった2艇のイカダ

★ 鷹巣小イカダレース 親子が声かけ合い前進

真夏の海に飛び出して、楽しい思い出をつくろうと鷹巣小学校は7月18日、あづま海水浴場から無人島までのイカダレースを実施しました。

レースには6年生22人とその保護者らが参加。竹と発泡スチロールを組み合わせて手づくりしたイカダ2艇に、親子が一緒に乗り込み、あづま海水浴場から約2^{キロ}沖の小島を目指しました。

イカダは潮の流れや風の影響で、それぞれ西へ東へと目的地とは違う方向へ進んでいきました。親子は声をかけ合いながらオールをこぎ続けて進路を修正し、約2時間後に小島へ上陸することができました。

レース後はバーベキューで体を癒しましたが、疲れた表情を隠せない保護者のとなり、児童たちの絶えない笑顔が広がっていました。

↓川添町長の話しに耳を傾ける生徒たち



★ 川床中ふるさと講演会 添町長が長島への思いを語る

川床中学校は7月15日、同校体育館で全校生徒81人を対象にふるさと講演会を開催しました。

この講演会で講師を務めたのは川添町長です。川添町長は『ふるさとへの思い』と題して、町長になるまでの経緯や長島の時代の変化、理想の長島像などを、生徒たちに順を追って語りかけました。

講演後、火之浦勇成君（3年）は「町長の仕事は難しくてすごいと思った。長島が好きなので、これからも明るく元気な町であってほしい」と話していました。

★ 3階ベランダでハトが子育て ハトの実家は役場のプランター

7月10日、長島町役場のプランターが実家となったハト2羽が空高く飛び上がり、巣立っていきました。

役場3階のベランダにあるプランターに、ハトの卵2個が産み付けられ、6月初旬にふ化しました。その後、親鳥は幼鳥の子育てに奮闘し、立派な若鳥へと育てあげました。

7月に入ってから2羽の若鳥は、ジャンプしたり、翼を広げたりして飛行訓練を重ね、同日、自らの力で大空を舞うことに成功。実家であるプランターをあとにしました。



↑翼を広げて飛び立つ訓練をする若鳥